

【おおい町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

現代の日々進化する情報化社会において、情報教育が担う役割は大きくなってきています。このため、児童生徒が将来に備える必要なスキルの習得が求められています。

A I型ドリル教材や学習支援ソフト、電子黒板の導入などICT環境の整備による、それぞれの理解度や進度に合わせた個別学習の推進、時にはグループ学習などを通して共同的に作業を行い、自らを表現することで、児童生徒の成長を促していきます。

情報社会に適応し、これからを担う人材のための教育環境並びに児童生徒一人ひとりが自己を肯定し、他者とのコミュニケーション能力が育つ学びを目指します。

2. GIGAスクール構想「第1期」の総括

当町では、GIGAスクール構想に基づき、令和2年度に児童生徒用タブレット端末の整備を行い、「1人1台端末」を実現するとともにネットワーク環境と無線接続環境の整備、普通教室のみならず一部特別教室への電子黒板等のICT機器の整備などを行ってきました。

また、家庭学習におけるネットワーク環境のない家庭向けにポータブル型のWiFiの貸し出しなども行い、持ち帰り学習時にも平等な学習機会の提供ができる環境整備を図っております。

その他、端末の操作方法等の習熟度の個人差が見られることから、ICT支援員を各校月2回配置し、教職員や児童生徒の学習活動のサポート体制の整備も出来ているところですが、その支援回数が十分でないといった課題も挙がっていることから支援員の回数の増加を検討することとしています。

また、端末やキーボードの故障が頻発したことで、修理に時間を要し適切な環境が提供できていたかといった課題も残りました。

その他、学校に来たくても来られない児童生徒のためのオンライン相談や多様な学びの場の創出、居場所の確保について努める必要があります。

このような点から児童生徒一人ずつが、まずはICT機器に慣れること、そして段階的に活用していく中で、個々に応じた学習機会の提供並びに学習指導が出来ました。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的な活用

A Iドリルを用い積極的な持ち帰り学習を進めている中で、更なる積極的な活用を努めます。また、児童生徒自身が授業の中で端末を用い課題を調べ、考え、発表する機会を多く持つ授業を展開することで、自己効力感の向上を目指します。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

児童生徒がA Iドリルを用い児童生徒それぞれの理解度や進度に合わせた学習を行うことで、学習習慣の定着と学力向上に取り組んでいます。また個々で学ぶだけでなく、授業支援ソフトを用いて他者参照・共同編集をしながら自らの考えを形成し合意形成が図られるようグループ学習の推進を図ることで協働的な学びの充実を図ります。児童生徒間だけではなく教職員とのやりとりも積極的に行い、児童生徒の特性や理解度に合わせた課題設定や授業の展開を目指します。

(3) 全ての児童生徒の学びを保障

他自治体の状況を調査し、故障率が低いとされるタブレット端末 (iPad) を採用し、適切な学びを保障します。

また、すべての児童生徒が平等に教育を受けられるよう、平等な学習機会を提供し、個々の状況に応じた支援の充実が課題となっています。1人1台タブレットを活用し、児童生徒の心や体調変化をいち早く発見する取組を広げていきます。

また、学校に来たくても来られない児童生徒のためのオンライン相談や多様な学びの場の創出、居場所の確保が求められますが、秘匿情報を取り扱う点からセキュリティ面について他自治体の状況を調査しながら、学びの保障の確保に努めます。

(4) ICT支援員の更なる活用

ICT支援員の支援回数の増加や地域人材の積極的な活用を行うことで、授業を展開する教員の習熟度の向上並びに児童生徒一人ひとりへの支援体制の整備を検討していきます。